

工場を転用した障害者施設による地域コミュニティ活性化

鉄骨2階建ての事務所付き工場を障害者のための施設（生活介護施設）に改修。施設利用者やその家族、施設スタッフと周辺地域住民とのコミュニケーションを活性化するための仕組みを計画。

① 改修物件の調査から計画着手までの経緯

この事例は、鉄骨造2階建て事務所付き工場の1階工場部分を重度の心身障害者のための生活介護施設（昼間において、障害者に対して入浴や排泄、食事の介護サービスを提供し、また創作や生産活動の機会を提供する施設）として改修したものである。発注者である社会福祉法人からの要望を受け、指定されたエリア内で希望する施設への改修が可能な物件を当事務所にて探し、沢山の物件を調査した。そのほとんどの物件は、物理的、または法的な理由で対象から外れたが、本物件は法的な条件が揃っていたこと、鉄骨造で天井が高かったこと、道路に対して長手方向が面しており採光や換気が取りやすかったこと、などが決め手となり改修の対象となった。

② 施設の計画内容

平面計画としては、元々水回りがあった場所にトイレや浴室などの水回りをまとめて設け、残りのスペースを施設利用者の生活スペースと交流のためのスペースとして計画した。地域住民が立ち寄りやすいよう道路側には、利用者の車いす置き場を兼ねたリサイクルショップを細長く配置し、このリサイクルショップと利用者の生活スペースとの間に、キッチンやトイレ、下足室や相談室などの小さな空間を一列に並べた。キッチンはメインエントランスの横に設け、さらにエントランス側にはカウンターを設けて、利用者の家族やリサイクルショップに立ち寄った地域住民と施設利用者やスタッフとが気軽にコミュニケーションをとれる場所をつくった。これらの小さな空間は天井を低く抑えることで、道路やリサイクルショップから作業室への視線を適度に遮りつつも、上部から利用者の生活スペースへ採光や通風が確保できるような断面計画としている。

本施設での利用者への重要な介護サービスの一つである入浴介護については、機械を一切使わない、スタッフの手による優しいサービスを実現しつつ、作業の効率化とスタッフの負担（利用者の抱きかかえ）の軽減が検討された。浴槽は洗い場から利用者を入浴させやすい高さとし、また洗い場には2か所の出入り口を設けることで、入浴作業が渋滞しないようにしている。

③ 地域コミュニティを活性化する仕組み

リサイクルショップではリサイクル品の他に施設利用者が製作にかかわったオリジナル商品を販売しており、利用者が交代で店番を担当している。商品を陳列する棚を設けた壁面には、利用者が製作したアート作品を加工した壁紙が貼ってあり、店番をする利用者とともに施設の顔となっている。エントランス横のカウンターではコーヒーと利用者が作ったクッキーがふるまわれ、施設利用者の家族やふらりと立ち寄った地域住民と施設スタッフ、利用者との会話が交わされており、道路からはその様子がうかがえる。開所以降、このささやかなスペースは、近所の高齢者や障害を持つ子どもの母親たちが集まるコミュニティの場として機能している。

④ 障害者施設への転用の効果と課題

障害者施設の設計を依頼されるとき、発注者からの要望は施設利用者の安全性と快適性の確保、スタッフの介護作業のしやすさ、に関する内容がほとんどである。もちろんそれら一つひとつに対して建築的に解き、限られた予算のなかで最大限要望を満たすことは設計者としての責務ではあるが、当事務所ではさらにそのうえで、その施設が周辺地域のコミュニティを活性化させるきっかけとなるような仕組みを必ず取り入れるようにしている。それは、一つの窓の取り方であったり、外のベンチであったり、植栽の計画といった、けして大きくコストに影響を与えるようなものではなく、周辺住民へささやかなメッセージとして機能すれば十分であると考えている。それをきっかけとして周辺住民がその施設に関心を寄せ、少しずつ障害者への理解を深めると同時に、コミュニティを欲している地域住民がその施設を核としてささやかなコミュニティの場をつくり始めることは、当事務所が設計した他の施設でも実証済みである。このような小さなコミュニティを活性化するきっかけを持つ施設がまちなかに多く点在することが、高齢者や障害者を含めたさまざまなケアが必要な人びとにとって住みやすいまちづくりのためには必須なのではないかと考える。

（高草大次郎）

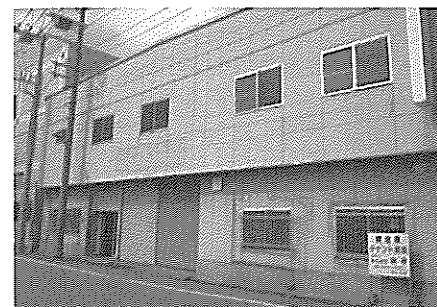


写真1 音・on 改修前の外観



写真2 改修前の内観

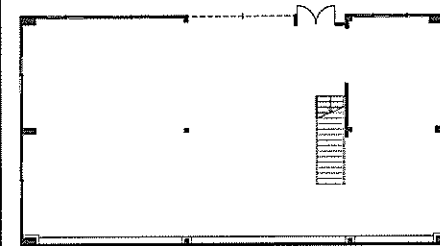


図1 改修前の平面図

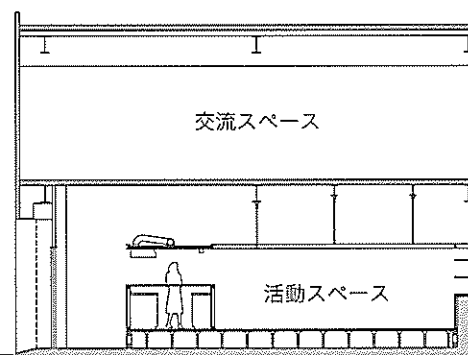


図2 改修後の断面図

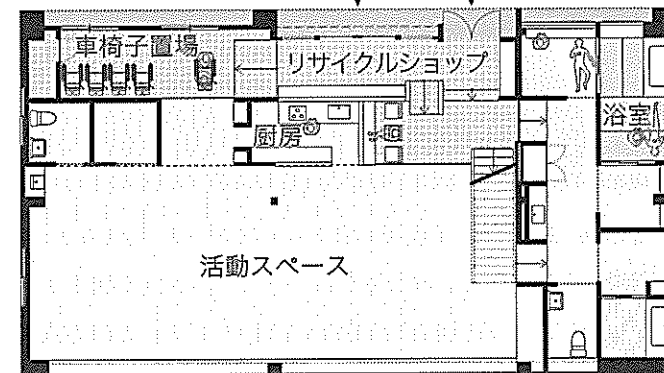


図3 改修後の平面図

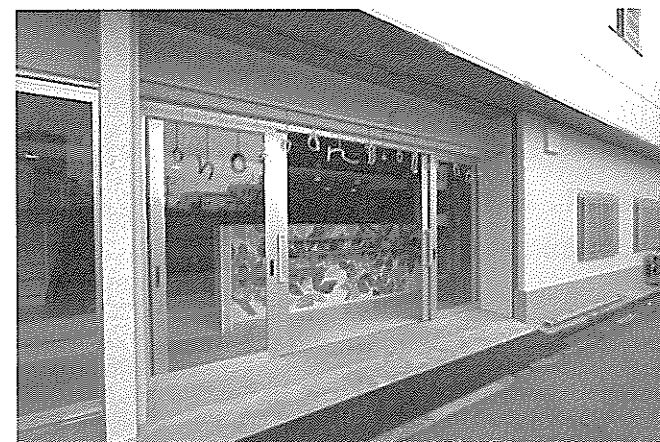


写真3 リサイクルショップ：前面道路に対してオープン

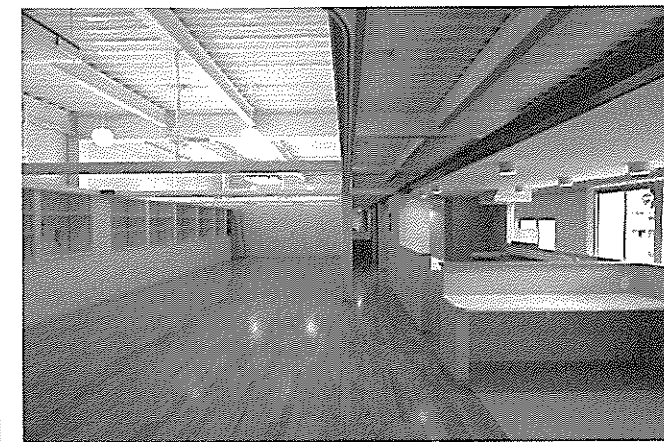


写真4 拡がり感とプライバシー確保を両立する空間構成



写真5 リサイクルショップの壁面



写真6 利用者が描いた施設サイン

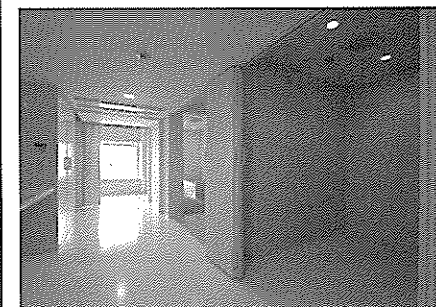


写真7 廊下から出入りしやすい水回り

事業者:	社会福祉法人 ゆうのゆう
所在地:	大阪府大阪市港区
用途:	生活介護事業所
定員:	13人
転用前建物:	事務所付き工場
建物構造:	鉄骨造
開設年:	2013年
転用床面積:	205m ²
改修費:	約2200万円
設計:	ar-co. care
所有形態:	賃貸

年表:	2012年 事業者が設計事務所に相談
	2012年 工事着工
	2013年 工事竣工

図4 音・onの概要